

□議員名：中村 博行

1 本市の英語教育推進について

論点	学習指導要領の見直しから小学校の英語教育が義務化されたが、本市の現状と対応はどうか。また、将来ビジョンについての考えは。
回答	平成 32 年度からの外国語の教科化に向けた移行期間であるが、ALT を 1 名増員して 3 名体制をとっており、強化した。来年度は 32 年から実施される英語授業の時間数を市内 2 小学校で先行実施する。市内でこの情報を共有して、32 年度の教科化に備える。

論点	英語教育推進強化策として、中学卒業時に英語検定 3 級取得の目標を市内全中学校に課してはどうか。
回答	中 3 の時点で、全員が英語検定 3 級の英語力を目指すことは、大変意味のあることだと考える。しかしながら、検定料の負担もあることから本市では山口県と同様に担当教諭が 3 級以上の英語力があると認めた生徒の割合を 50%以上になることを目指して努力する。

論点	中学生海外派遣事業についての検証はどのようにされ、評価はどうか。
回答	1992 年からスタートし、250 人以上の生徒、引率者を派遣してきた。中学生の時期に、海外生活を経験することは何物にも変えがたいメリットや大きな意義がある。今年度から 2 名増やし、本事業の効果をより広げていきたい。

論点	中学生海外派遣事業体験者の追跡調査はどのように、また、どこまでされているか。
回答	平成 25 年に、平成 17 年度から 24 年度までに派遣事業に参加した生徒を対象にアンケート調査を実施した。その結果、国際交流の盛んな学校に進学した等の回答を得ている。5 年が経過したので今年度中に同様の調査を予定しているが、定量的な評価は困難である。

論点	モートンベイ市との関係強化についての考えを問う。
回答	中学生海外派遣事業以外には交流はなかったが、昨年モートンベイ市

	<p>長の本市訪問以降、メールや手紙のやりとりを続けている。今回、引率として市の職員を派遣したところ、2020 年中に大学開校が予定されており、ぜひ藤田市長の訪問を、との招待を受けている。</p>
--	--

## 2 健康寿命延伸策について

論点	<p>健康寿命の全国調査によると前回より男女ともに延びたとの結果だが、本市の状況はどうか。また、健康寿命延伸の取り組みを問う。</p>
回答	<p>最近 3 年間を比較すると、男性は 1.95 歳延び、女性は 0.44 歳短くなっているが、指標 10 年間では、だんだん健康寿命は延びている。健康寿命延伸について大切なことは、若い世代から健康づくりに取り組むことが必要だと考えている。</p>

論点	<p>百歳体操が各所で行われているように健康寿命延伸の機運が高まっている。NHK ラジオ体操の誘致など体操のイベント開催はどうか。</p>
回答	<p>今年で 9 回目を迎えた SOS 健康フェスタを通して、SOS おきよう体操の普及啓発に努めており、NHK ラジオ体操より、生活習慣改善も視野に置いた幅広い施策として、継続した取り組みに力を入れている。現在実施している事業の普及啓発を優先、一層努める。</p>

論点	<p>健康遊具の開発、アイデアや高齢者向きの遊戯を募り、紹介などしてはどうか。</p>
回答	<p>自主活動によって、皆様からいろいろな提案を頂けることは本当にいいアイデアが浮かんでくるものと思う。しかし、公で遊具を設置するとすると不特定多数の方が使用される公園とか、事故を予防するため、遊具使用のための指導員の常駐などハードルが高い。</p>

## 3 2020 東京オリンピック、パラリンピック開催について

論点	<p>オリンピックを活用した外国人を含む交流人口増の取り組みは考えているか。</p>
回答	<p>再来年に迫り、徐々に大会機運の醸成が図られている。大阪万博開催を含め、訪日観光客をターゲットにした事業の推進は本市単独では非常に困難であるため、近隣広域でのインバウンド客の誘致に向けた取り組みの実施を協議していきたい。</p>

論点	聖火リレーの市内ルート誘致についての働きかけなどはされているか。
回答	聖火リレーの日程で、山口県は福岡県から引き継ぎ、再来年の 5 月 14 日、15 日の 2 日間で県内を走行し、島根県へと引き継ぐことが公表されている。本市としても、市内ルートの誘致を切望しており、推進協議会で強く要望しながら、誘致に向けて最善を尽くしていく。